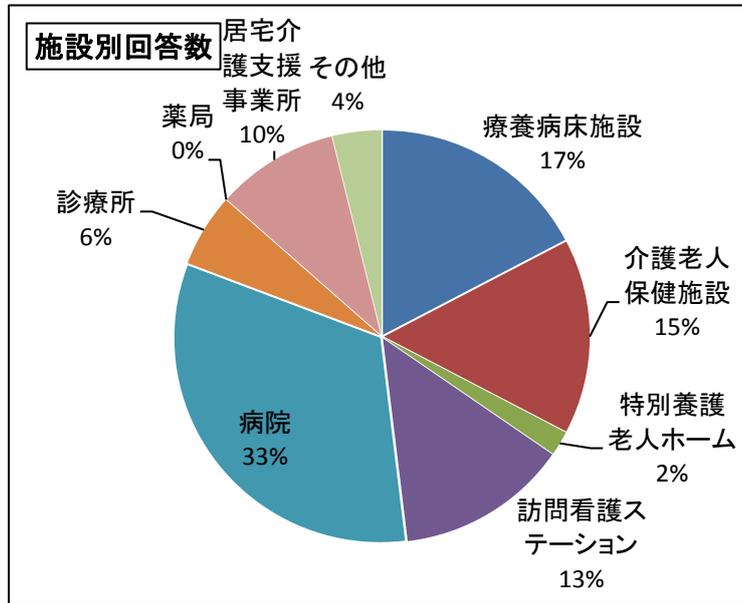


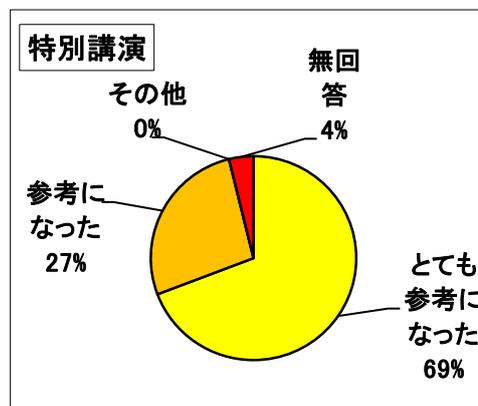
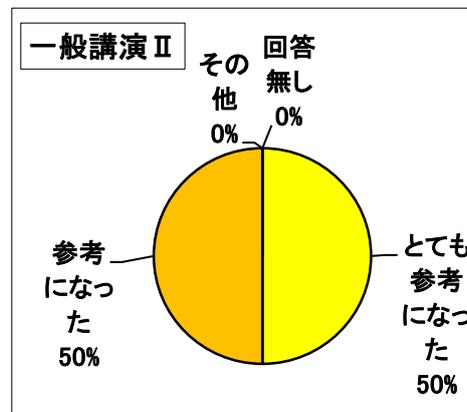
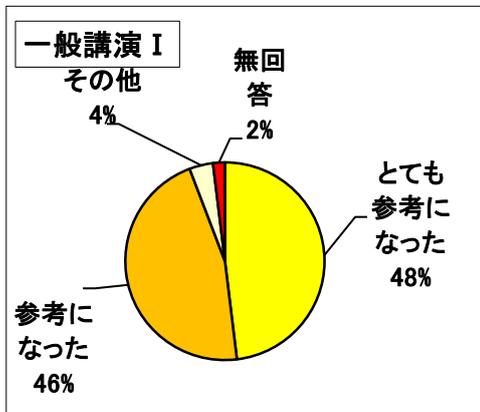
第8回慢性期医療を考える会 ～アンケート結果～

参加者数 65名
 回答者数 52名 (回収率 80.0%)

1 貴院、貴施設について教えてください。



2 本日の講演について、それぞれご感想をお聞かせ下さい。



<講演総評>

- ・地域包括ケアシステムの構築についてよく分かった。
- ・急性期と慢性期の連携の大切さをつくづく感じた。
- ・サ高住のような自宅環境に近い場所が求められており、それを整えることで患者さんの生活の質や満足度が高まっていくのだと感じた。
- ・地域の方との交渉を持つという活動は、とても必要ではないかと思った。
- ・急性期を脱したばかりの人が、すぐ施設に入所したりということがありうる時代になるため、療養施設の施設も今までのようにはいかないと実感した。
- ・もっと具体的な方法がききたかった。サ高住のあり方、運営の困難性についてききたかった。
- ・病院やサ高住に入るには全て金銭的負担が大きく、年金額の減額・医療費負担増大から在宅にせざるをえない人たちはどうしたらよいのだろうかと感じました。

<今後の講演内容の希望>

- ・在宅医療/介護のこれからについて
- ・(静岡市内の)各機能を持つ機関とその連携について
- ・連携を実現するための行政の取り組みについて
- ・認知症のケア(ユマニチュード)について
- ・診療報酬(在宅系)について
- ・様々な施設の意見交換

<現在の問題点、病院・行政に対する意見>

◆問題点

- ・重症の患者さんが多くなってきている。入所して数日で状態が悪化することが多い。
- ・吸引が必要になると、老人病院しか選択できない。
- ・急性期病院で良くなると、受け入れがないのに退院をせまられる。
- ・急変時、施設と病院との連携がスムーズにいかないことがある。

◆国・地方行政機関への意見

- ・多職種の顔がみえる集まりを少しずつ増やしてほしい。
- ・急性期病院から慢性期病院への流れを円滑にすること。
- ・急性期病院と地域の施設等が連携できるような診療報酬上のサポートを増やしてほしい。
- ・静岡でも孤独死が毎日のようにある現状を、行政はどうしていくのか。具体策を講じてほしい。